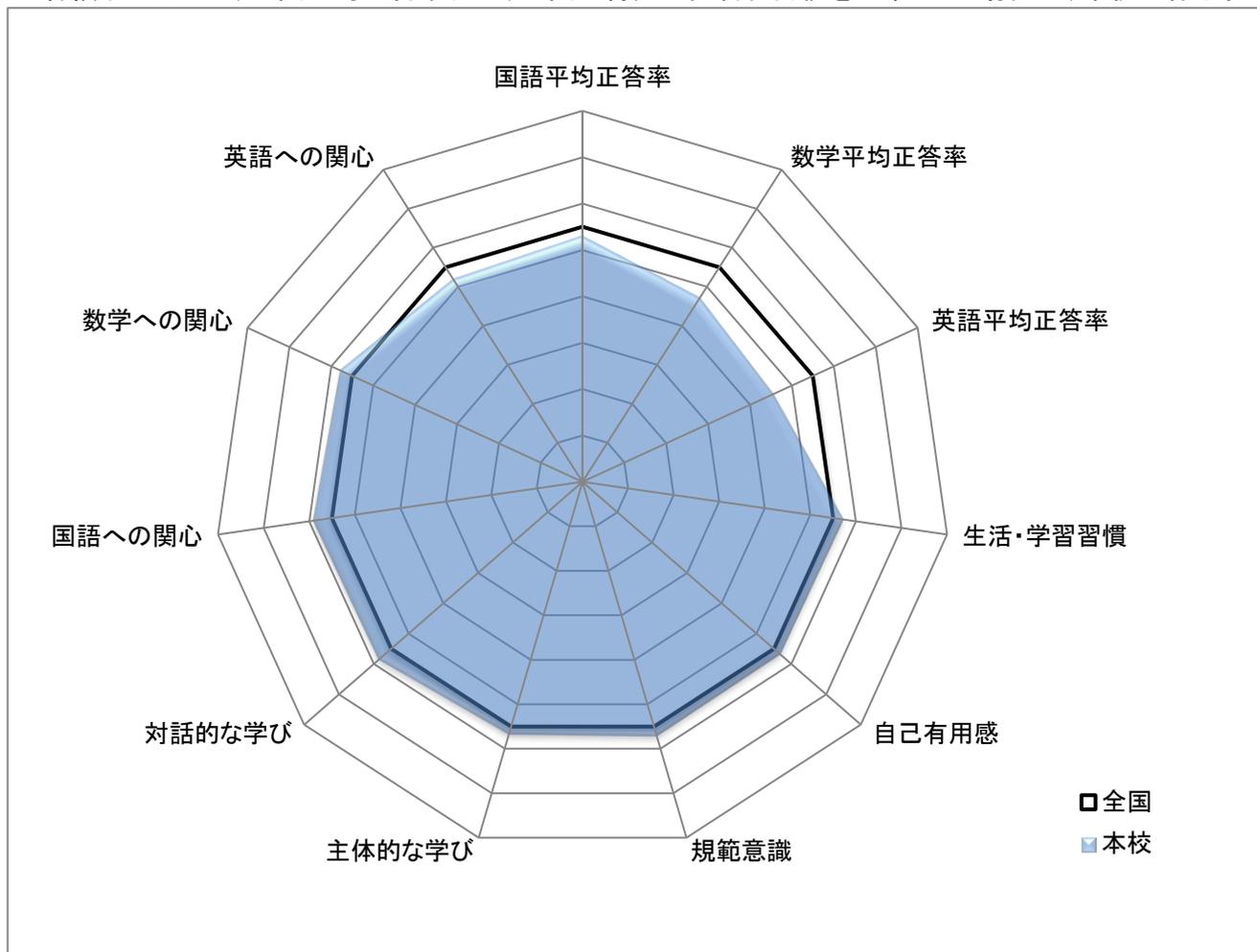


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】平均の正答率では、都平均を下回った。基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、それをもとに日々の授業を通して、思考力・判断力・表現力を伸ばさせる必要がある。
 【数学】特に「図形」にかかわる問題が大きく下回っている。図形の定義などを理解し、証明にかかわる問題に関して苦手であることが分かった。
 【英語】情報を正確に聞き取る問題の正答率が特に低く、日ごろから英語の学習に触れる機会を多くし、英語に慣れる必要があると考える。

《授業改善のポイント》

【国語】自らの考えを表現させる機会を増やし、その中で相手に伝わりやすくする工夫を指導していく。目的をもって表現したものを、その目的にそって振り返り、表現の向上につなげる。
 【数学】対話的な学習活動を重視し、生徒が主体的に取り組む授業の充実を図る。生徒が「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何を学んだのか」をわかる授業を行う。上級学年の学習時には同領域における過去の学習内容との関連に触れ、復習する。根拠を示しながら言葉や文章で数学的に説明する場面を多く設定する。文章題や関数の問題に多く触れさせ、苦手意識を解消する。
 【英語】目的意識をもって音声聞くように指導する。長文を読む際、単語レベル、語句レベル、文レベルと段階を踏んで読み取る練習をさせる。多様な場面・状況・目的の会話文に触れさせ、暗唱できるようにすることを目指して音読練習を行う。SJS授業スタンダードを全教科で継続し「わかる授業」を実施していく。

《チャートの特徴》

国語、数学、英語に関する平均正答率は都や全国の平均値を下回っているが、対話的な学び、主体的な学び、規範意識、自己有用感、生活・学習習慣は全国の平均値を上回っている。また、各教科に対する関心も都や全国の平均値を上回っている。このことから生徒の授業や学習に対する意欲は向上しており、今後授業や学習内容の改善を図ることにより平均正答率の向上が期待できる。

《家庭・地域への働きかけ》

授業の振り返りを徹底して学力の定着を図りたいと考えております。家庭学習環境を整えるよう習慣の確率と、家庭学習での振り返り等の定着を図ることにご協力ください。また、体験的な学びの充実にもご協力ください。